

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃島小学校

学校の教育目標

- ・健康で 明るい子ども
- ・礼儀正しく 思いやりのある子ども
- ・よく考え すすんでものごとに取り組む子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- 基本的な学習習慣及び生活習慣を確立する自律力
- 他者を尊重し、自分の意見や考えを伝えることができる表現力
- 知識・技能を活用し課題の発見と解決に取り組もうとする力

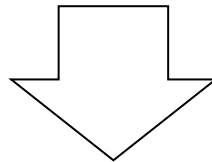
令和2年度「学習力サポートテスト」や令和2年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ▲話し合い活動において、様々な発言の中から共通点を見だし、話し合いを進めることに課題がみられる。 ▲説明文において、段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読むことに関しては、区内平均より2.8ポイント低く、課題が見られる。 ▲漢字の読み取りは概ねできているが、漢字の書き取りに関して正答率が下がる傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲役割分担を意識した話し合い活動の体験が少ない。 ▲各段落を意識して文章構造を捉えようとする視点が定着していない。 ▲既習漢字を使って、文章を書こうとする意識が薄い。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ▲小数や分数の乗法・除法の計算に課題が見られる。 ▲伴って変わる2つの数量の関係を数式で表し、数量の1つの値から、もう一方の値を導くことに課題が見られる。 ▲図形についての角の大きさを問う問題では、区内平均より3.6ポイント低く、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲小数や分数の四則演算に必要な算数的な見方や考え方が曖昧である。 ▲日常の事象における伴って変わる2つの数量の関係に着目し、思考・表現する機会が少ない。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ▲社会的事象の特色や意味を考え、社会に見られる課題を把握することに課題が見られる。特に、日本の農業と水産業では、区内平均より1.1ポイント低かった。 ▲位置や空間的な広がり、時期や時間の経過に着もして社会事象を捉え、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲抽象的に社会事象を捉え、思考し表現することが難しい。 ▲一つの社会事象を複数の要素と関連づけて思考することが苦手。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ▲一年間を通した動植物の変化について季節と関連付けて考えることに課題が見られる。特に、植物の発芽と誕生、魚の誕生については、区内平均よりも、それぞれ1.5ポイント、3.2ポイント低かった。 ▲生命や地球領域における知識に課題が見られる。 ▲電気のはたらきについては、電流の基礎的な知識に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲自然に触れる体験が少なく、年間を通した動植物の変化を捉えにくい。 ▲実体験で把握しづらく、知識重視の学習に偏りやすい。 ▲電気の知識に関する抽象的な概念の理解が乏しい。

英 語	<p>▲身近な事柄について簡単な語彙や基本的な表現を使い、コミュニケーションを図ることが苦手な児童もいる。</p> <p>▲外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解に興味をもてない児童もいる。</p>	<p>▲英語と日本語の発音の相違が積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を少なくしている。</p> <p>▲言語やその背景にある文化について興味が乏しい。</p>
体 育	<p>▲各運動領域における技能面での個人差が見られる。主体的な学びに課題ができていない。</p> <p>▲教え合いや伝え合いを通して学習を進めることに課題が見られる。</p>	<p>▲各運動領域の特性を正しい理解が欠けている。</p> <p>▲各運動領域の自分の課題を把握することを少ない。</p>

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律を意識して児童が活動し、集中して学習に取り組める環境を整えていく。 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。 ・朝学習における漢字・計算練習の積み重ねや放課後や夏季休業中の補習学習により、基礎学力を高めるようにする。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で統一した学習規律を定める。 ・学校評価児童アンケート「学習規律・生活の約束」の項目において肯定的評価95%以上を目指す。 ・東京ベーシック・ドリル診断テスト（算数）において達成率85%以上、漢字検定において合格率90%以上を目指す。
②授業改善	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央区学習スタンダードを取り入れた授業の計画、実行、評価、改善を定期的に行う。 ・個別に支援が必要な児童に適した授業改善を行う。 ・ICT機器を活用した授業展開をしていく。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会（仮称）を立ち上げ、計画的かつ定期的な授業改善を行っていく。 ・学校評価児童アンケート「授業内容」に関する項目において、肯定的評価が95%以上を目指す。 ・ICT委員会を中心に計画的に研修を実施し、教員のICT機器の活用力の向上を図る。
③教員の指導力	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が1単位時間の中でどのような力を身に付けることができたかを実感できる授業を行う。 ・教員相互の授業観察を実施し、授業力を向上させていく。 ・全教職員がICT機器を活用した授業を行えるようにする。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート「学習内容」に関する項目において、肯定的評価が90%以上を目指す。
④家庭との連携	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や学年の方針、取組等を保護者に伝え、協力体制を作る。 ・ICT機器を活用し、家庭とのコミュニケーションの充実を図る。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート「保護者との連携」の項目において肯定的評価が90%以上を目指す。

⑤体力向上	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで体を動かし、運動に親しむことができるような取組を行う。 ・他者の動きのよさを感じ、実践することで、運動への楽しさを実感できるようにする。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「体力向上」の項目において、肯定的評価が80%以上を目指す。
-------	--



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	タブレット機器を使用し、練習問題を繰り返すだけでなく、動画などを活用し、各教科単元の学習内容が具体的に理解できるようにしていく。
取組Ⅱ	授業中での言葉遣い、自分の考えや意見を他者に分かりやすく伝える話し方を、児童の発達段階、学年・学級の実態に合わせて提示していく。
取組Ⅲ	各教科で身に付けた知識・技能を活用し、他者との交流を図る場を意図的かつ計画的に設定し、児童の考えが広がり、深まるようにする。

②授業改善	
取組Ⅰ	学習指導要領で示された各教科の目標の3つの観点を捉え、各教科の見方・考え方を取り入れた授業を展開するために、指導書や様々な実例を参考に教材研究を行い、児童の実態に合った授業を提供していく。
取組Ⅱ	児童が1単位時間に見通しをもって取り組めるように、単元のめあての具体的な設定、評価を行う場の設定、児童の習熟度を確認にする振り返りの時間の確保など、ICT機器を取り入れた授業デザインを行っていく。
取組Ⅲ	学習指導要領で整理された「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質のバランスのよい育成を目指し、教科横断的な視点での授業構成を行っていく。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	年間を見通した教育計画や教科指導計画の適切な実施を学年間で共有し、かつ年間を通したカリキュラムデザインを図り、授業計画を立て、実行していく。
取組Ⅱ	OJT の実施し、教員相互の授業観察の機会の場を計画的に設け、教員の指導力の向上につなげていく。また、教員1人1人が授業構成の視点や児童への声掛けなどの授業への知見を深めていく。
取組Ⅲ	ICT 研修を計画的に行い、授業での ICT 機器の活用が全教職員で行えるようにしていく。ICT 機器を活用した授業作りを目指し、ICT 機器を活用した研究授業を行っていく。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	本校の教育活動への保護者の理解を深めていくために、ホームページを活用し、積極的に情報発信をしていく。
取組Ⅱ	保護者が安心して児童を登校させることができるように、学校便りや学年便り、または連絡帳を通して学級の様子を具体的に伝える。また、ICT 機器を活用した保護者との連携を行っていくように、実践事例を増やしていく。
取組Ⅲ	低・中・高学年と各段階の実態に合わせて家庭学習が行えるように、保護者への理解を求め、宿題を毎日出していく。学年便りや保護者会等を活用し、家庭学習の方法や考え方などを保護者へ伝え、協力を依頼する。ICT 機器を活用した宿題の出し方についての実践事例を増やし、ICT 機器の活用の充実を図っていく。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	中休みは校庭や体育館で遊ぶよう指導し、体を動かす時間、機会を確保する。また、月一回程度のたてわり班活動では、全学年が企画した大縄チャレンジや様々な遊びに取り組む。
取組Ⅱ	各運動領域に必要とされる動きを相互に観察し、教え合う場を意識的に設定し、友達と運動することのよさを実感できる授業を行う。
取組Ⅲ	3月に行われる「マラソン大会」を目標に、全学年、体育や体育朝会で時間走に取り組む。また、高学年では、講師を招き「走り方教室」を開催し、走ることへの興味・関心をさらに高める。